

れ、208人から回答を回収している。

調査結果によると、卒業生の80%以上が卒業後1年以内に就職している（詳細データは、ミニッツのAnnex 3.11参照のこと）。ラオス経済は市場経済化に向けて発展段階にあり、企業数はまだそれほど多くない。このようなラオス経済を取り巻く環境を考慮すると、就職率はかなり高いと言える。卒業生がどのようなポジションで働いているかは調査されていないが、5年あるいは10年後には、各組織において重要な地位に就き、ラオス市場経済化の進展に寄与することが期待される。

(2) 指標2：卒業生のグレード・ポイント・アベレージ（GPA）平均値が3.0以上

グレード・ポイント・アベレージ（Grade Point Average：GPA）と呼ばれる成績の平均点は、2003年卒業生の場合2.472点で、2004年卒業生の場合2.636点である。2004年卒業生のGPAは、2003年卒業生よりも高くなっているものの、指標の3.0にはとどいていない。他方、評価調査団としては、設定された指標値が高すぎると考えており、FEM学生の平均的能力が徐々に向上している事実を踏まえ、同指標の達成度を損なうものではないと評価している。

経済学科及び経営学科別のGPA値データを以下に示す。

学科名	2003年卒業生		2004年卒業生	
	卒業生数(人)	GPA値	卒業生数(人)	GPA値
経済学科	71	2.592	73	2.629
経営学科	78	2.374	94	2.642
平均	149	2.478	167	2.636

(3) 指標3：ほとんどの卒業生がFEMの教育に満足する

2004年に実施されたFEM卒業生雇用状況についてのアンケート調査には、FEMで身につけた知識や技能が職場で役立つ適切なものかどうかに係る、質問項目が含まれている。調査結果を以下に示す。

	2001年卒業生		2002年卒業生		2003年卒業生	
	人数	%	人数	%	人数	%
(A) はい	52	64.2	27	39.1	54	52.9
(B) 概ね適切	24	29.6	37	53.6	36	35.3
(C) いいえ	3	3.7	1	1.4	4	3.9
(無回答)	2	2.5	4	5.8	8	7.8
計	81	100.0	69	100.0	102	100.0
(A) と (B) の合計	76	93.8	64	92.8	90	88.2

卒業生の88%から94%が、「はい」あるいは「概ね適切」と回答している。この結果から、ほとんどの卒業生がFEMの教育に満足しており、この指標は達成されていると判断される。

(4) 指標4：FEMは、学生に最も人気のある学部である

1年間の教養課程の後、学生は学部に分けられる。学生は入りたい学部を希望することができるが、大学側は成績順（GPA値）に選定していく。2004/2005年度の場合、394人の学生がFEMの2年生への進級を希望し、その内、238人がFEMに進級している（定員は150人）。

夜間コースの場合、1,758人が入学を希望し、540人が入学している（夜間コースには教養課程が無く、専門課程が1年生から始まる）。大学本部の教務課によると、FEMは文系の学部の中で最も人

気が高く、2番目は法学部であるとのこと（自然科学系の学部では医学部の人気が一番高いとのことであった）。このように、FEMが学生の間で最も人気のある学部であるという事実は、FEMに優秀な人材が集まっていることを意味する。

通常コースと夜間コースの学生数は以下の通りである。

通常コース（昼間のコース）

年度	2年生(人)	3年生(人)	4年生(人)	5年生(人)	計(人)	卒業生(人)
1998-99	—	162	—	—	162	—
1999-2000	—	158	162	—	320	—
2000-01	—	180	158	160	498	—
2001-02	—	168	177	158	503	150
2002-03	—	197	165	177	539	158
2003-04	—	267	197	165	629	208
2004-05	238	251	265	200	954	168
					計	684

特別コース（夜間コース）

年度	1年生(人)	2年生(人)	3年生(人)	4年生(人)	5年生(人)	計(人)
1998-99	—	—	—	—	—	—
1999-2000	—	—	—	—	—	—
2000-01	335	—	—	—	—	335
2001-02	177	333	—	—	—	510
2002-03	501	176	333	—	—	1,010
2003-04	473	489	174	324	—	1,460
2004-05	510	451	463	177	327	1,928

下表に参考として2003/2003年度の学部別の学生数を示す。この中でFEMの学生数は、大学全体の学生数の8.4%を占めている。

	学部名	通常コースの学生数(人)			夜間コースの学生数(人)	留学生数(人)	計(人)	(%)
		割り当て	非割り当て	小計				
1	教養課程	1,717	2,327	4,044	0	62	4,106	22.4
2	理学部	165	105	270	0	0	270	1.5
3	教育学部	385	131	516	178	0	694	3.8
4	経済経営学部	159	356	515	1,022	0	1,537	8.4
5	社会科学部	113	124	237	0	0	237	1.3
6	医学部	273	372	645	0	0	645	3.5
7	文学部	193	234	427	2,534	106	3,067	16.7
8	法学部	161	290	451	0	0	451	2.5
9	工学部	585	1,043	1,628	3,974	0	5,602	30.5
10	林学部	144	160	304	761	0	1,065	5.8
11	農学部	221	177	398	294	0	692	3.8
	計	4,116	5,319	9,435	8,763	168	18,366	100.0

(5) 指標5：ほとんどの学生が講義に満足する

本プロジェクトでは、2005年1月から2月にかけてFEMの2年生から5年生を対象にアンケート調査を行っている。講義の満足度を科目毎に調査したところ、満足度は、60%から100%とする学生

が多かった。大半の科目で高い満足度があるという結果が出たが、一部科目では、低い満足度であるという結果が出ている。したがって、一部の科目については改善の余地があり、この指標には未達成部分が残されていると判断される。

学年	科目	満足度 (%)						80%と100%の計	60%, 80%と100%の計
		0%	20%	40%	60%	80%	100%		
2	Introduction Management	0.0	1.2	9.1	29.1	38.8	21.8	60.6	89.7
	Mathematics	0.6	3.0	12.1	32.1	32.1	20.0	52.1	84.2
	Office Management	0.0	3.6	7.8	25.9	41.6	21.1	62.8	88.6
	Introduction Economics	0.0	0.6	6.7	28.5	40.6	23.6	64.2	92.7
	Statistics 1	0.0	3.0	4.8	26.1	43.6	22.4	66.0	92.1
3	Computer	4.9	15.2	25.6	29.3	18.9	6.1	25.0	54.3
	English	2.0	0.7	5.9	20.3	37.9	33.3	71.2	91.5
	History of Laos	2.4	3.0	24.4	36.0	27.4	6.7	34.1	70.1
	Mathematics	0.0	3.0	13.3	34.9	38.0	10.8	48.8	83.7
	Macro Economics	0.6	3.0	8.4	24.0	43.7	20.4	64.1	88.1
	General Accounting	1.8	2.9	17.1	41.2	32.4	4.7	37.1	78.3
	Micro Economics	0.6	6.5	21.4	26.8	35.7	8.9	44.6	71.4
	Business Law	0.0	1.5	1.5	16.2	57.4	23.5	80.9	97.1
4	MIS	0.0	1.4	21.1	46.5	31.0	0.0	31.0	77.5
	Production Management	0.0	2.9	10.3	36.8	45.6	4.4	50.0	86.8
	Organizational Behavior	0.0	0.0	2.9	20.3	50.7	26.1	76.8	97.1
	Agricultural Economics	4.1	7.2	24.7	30.9	30.9	2.1	33.0	63.9
	Statistics 2	1.0	0.0	6.9	22.5	46.1	23.5	69.6	92.1
	Principle of Marketing	1.1	1.1	7.5	24.7	45.2	20.4	65.6	90.3
	Development Economics	1.0	9.2	17.3	41.8	26.5	4.1	30.6	72.4
	International Economics	1.9	1.9	11.7	24.3	49.5	10.7	60.2	84.5
	Money & Banking	2.8	17.9	24.5	31.1	22.6	0.9	23.5	54.6
	Econometrics	1.4	12.7	21.1	32.4	23.9	8.5	32.4	64.8
	Labor Economics	0.0	4.1	10.8	27.0	44.6	13.5	58.1	85.1
5	Industrial Policy	0.0	0.0	9.0	31.3	44.8	14.9	59.7	91.0
	Project Management	0.0	4.8	25.3	41.0	24.1	4.8	28.9	69.9
	Agricultural Economics	0.0	5.7	12.9	40.0	31.4	10.0	41.4	81.4
	Environmental Economics	0.0	0.0	4.2	9.9	57.7	28.2	85.9	95.8
	Asian Economy	0.0	0.0	5.8	7.2	60.9	26.1	87.0	94.2
	Logistic Management	0.0	5.1	14.1	41.0	32.1	7.7	39.8	80.8
	Banking Management	3.5	18.8	29.4	31.8	15.3	1.2	16.5	48.3
	Inter Business Management	0.0	0.0	2.4	19.3	47.0	31.3	78.3	97.6
	English	0.0	7.3	15.9	47.6	22.0	7.3	29.3	76.9
	Tourism Management	0.0	0.0	3.7	14.8	60.5	21.0	81.5	96.3

(6) 月例カンファレンスを通じた実践的知識の強化

FEM では、学生がより実践的知識を身につけるために月例カンファレンスを実施している。月例カンファレンスの講師は、ラオスの政府職員や民間部門で働くビジネスマンが務めている。時には、外国からの訪問者を講師として招くこともある（ダイエーの元社長の中内氏等）。こうした外部講師による講義については、実践的な内容を含む授業が受けられたことから、学生の評判は非常に高い。

3 - 4 上位目標

上位目標：FEM の卒業生が、ラオスの市場経済化に貢献する

3 - 4 - 1 上位目標に関する全般的評価

一般的に、上位目標は、プロジェクト終了後 5 年から 10 年を経て達成することが期待される事項で

ある。したがって、プロジェクト終了時に達成している必要は無いが、10年後に達成する可能性があるかどうかを見通すことは必要である。

FEM卒業生を雇用している機関では、雇用側はFEM卒業生に高い満足度を示しているという調査結果が出ていること、またインタビュー調査では、FEM卒業生は市場経済化に関わる経済・経営について幅広い知識を持っているとの評価を受けていることからみて、将来的にはFEM卒業生が、ラオスの市場経済化に貢献する高いポテンシャルを持っていると考えられる。一方で、FEM卒業生には卒業後すぐ政府機関やビジネス社会で即戦力となるような実践的能力を身につけてほしい、という意見もある。評価調査団としては、FEMのカリキュラムが極めて標準的なものである一方で、実社会の要求がより実践面重視に偏っていることに鑑み、教員にはラオスの経済・ビジネス現況を知り、それを授業内容により反映することが必要であると考ええる。

また、国立大学としてどのような人材を育成するべきか、国家レベルの教育、経済政策の中で、FEMの役割、人材育成方針を明確にすることが必要であろう。

3-4-2 上位目標の指標について

上位目標には、三つの指標が設定されている。①中級・上級の管理職の地位にあるFEM卒業生の人数が増加する、②FEM卒業生により多くの企業が設立される、③雇用主の大半がFEMを卒業した従業員に満足する、である。

FEMの第1期の卒業生を輩出してからまだ3年しか経っていないので、最初の二つの指標について評価することは時期尚早である。一方、3番目の指標については、以下に示すように良好な達成度であると評価できる。

本プロジェクトでは、100機関を対象に2004年8月から9月にかけて、FEM卒業生需要調査が実施されている。100機関の内訳は、政府機関が18、国営企業が15、国際機関が8、国内民間企業が27、外資系民間企業が22、その他にNGOなどである。この調査の中で、FEM卒業生に対する満足度に関する質問が含まれている。調査結果に係るデータは以下の通りである。

	満足度	回答数	(%)	(1)+2)
1)	大変満足	12	18.5%	80.0%
2)	満足	40	61.5%	
3)	普通	11	16.9%	
4)	不満足	2	3.1%	
5)	非常に不満足	0	0.0%	
	計	65	100.0%	
	無回答	35	—	

80%の機関が「非常に満足」あるいは「満足」と回答している。一方で、「不満足」とした回答はわずか3.1%である。このことから、指標3は、達成されていると評価できる。